



主体的・対話的で深い学び

学校長 森本 信一

令和3年度から全面実施されている学習指導要領では、**主体的・対話的で深い学び**という学習が求められるようになりました。とくに、新しく教科となった道徳科では、**生徒自ら主体的に考えること、仲間と議論する対話的な学び合い**、そして、**自分を見つめ・振り返り、学びを深めていくこと**が大切とされています。実は、この教育方法は、各教科でも重要な学習ということが出来ます。

学びで大切なことは、**まず自らしっかり自分の考えを持つこと**、そして**仲間と話し合いながら自分の考えをさらに深めていくこと**です。現在、道徳科では、教材の中心人物に共感し、自分事として自我関与する授業、教材にある問題を発見し解決していく授業、体験的な学習からも深く学ぶ授業等が多数実践されています。このような学習は各教科でも行われ、主体的に問題を発見し考え、仲間との議論を深める多面的・多角的な学習が広がっています。

ではなぜ、このような主体的・対話的で深い学びが大切なのでしょうか。

実は、日本では古くからこのような学びを大切にしてきました。能の創始者観阿弥は著書『風姿花伝(ふうしかでん)』で、「能を演じる者は、演じているもう一人の自分を見つめ演じている自分の存在が大切」と述べています。「もう一人の自分」を意識する力を心理学ではメタ認知能力といいます。主体的・対話的で深い学びという学習を支える力がこのメタ認知能力と考えることができます。たとえば、「**自分にとって今、何が問題になっているかを推論していく能力**」「**問題の解決方法を予測し、具体的な解決策の計画を立てる能力**」「**目標と結果を予測し、方法の続行や中止を柔軟に判断する能力**」等もメタ認知能力です。**主体的に自分を見つめ、粘り強く考え、仲間と先生と話し合いながら、深い学びが生まれる魅力的な授業の実践**を目指して取り組みます。

一方、**Society(ソサイアティ=社会)**という英語が注目されるようになりました。福沢諭吉は明治初期に人間交際と訳し、**社会と人との関係性の大切さ**を語っています。人間は、**狩猟社会(Society 1.0)**、**農耕社会(Society 2.0)**、**工業社会(Society 3.0)**、**情報社会(Society 4.0)**、と切り拓いてきましたが、我が国が目指すべき未来社会として、**Society 5.0(超スマート社会)**という**第5期科学技術基本計画**が提唱されています。**経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心社会の実現**です。今、子どもが学ぶ日本の学校では、**人間尊重の精神を基盤に、道徳科が推奨する「考え、議論する学習」**を大切に、未来社会の創造を見据えた学習を積極的に展開しているところです。

【校訓】	【めざす生徒像】
勉学	自主的・継続的に学び、自分の良さを伸ばす生徒
健康	心身ともに健康で、明るく、人間性豊かな生徒
責任	決まりを守り、義務を遂行して責任を果たす生徒
礼儀	あいさつを正し、品位を保つ生徒
勤労	働くことの大切さを自覚し、進んで協力し奉仕する生徒